

平成19年度 傍陽小学校グランドデザイン

学校経営ビジョン(学校長方針)

- 1 社会の変化に主体的に対応し、人間愛に満ち、創造的で活力ある成熟した社会を築き、21世紀をたくましく生きる世代を育成する教育の推進に努めます。
- 2 人間尊重を基盤として、建学以来の地域に立脚した学風と現実の子どもの姿から学び、知・徳・体の調和のとれた「そえひの子」の育成をめざします。

子どもの実態

【確かな学力】

習熟を中心として、高い学習意欲をもっている。学年が上がるにつれて、学習内容の定着度が低下

【豊かな人間性】

異学年同士でも、名前を知りあい、仲がよい。人間関係が固定化してしまっている傾向がある。

【健康な身体】

多くの児童が健全な食習慣を身につけている。持久力等の体力が、全国平均を下回っている。

学校教育目標

大地に根を下ろし 明るく活力に満ちた
チャレンジ精神旺盛な子ども

めざす子どもの姿

自ら課題をもち、もてる力を発揮して、粘り強く追究しようとする子【確かな学力】
ともに生きながら、自信をもって、よりよい生き方を創りだそうとする子【豊かな人間性】
身体を動かす喜びを感じ、たくましい「いのち」を育てていける子【健康な身体】

本校の強みと課題

小規模校単級ながら、多くの特色ある教育活動に教職員一人ひとりが取り組んでいる活動をともに振り返ってよさを感じ合い、よさを生かそうとするシステムが弱い。

学校を取り巻く環境

1 学校地域の実態

- ・豊かな自然・古い歴史・地域芸能行事
- ・福祉施設・施設に関わる多くの人々、人に優しい
- ・学校教育活動に協力的な人々
- ・三世代家族が多く、近所付き合いも濃密で、子どもとのつながりも強く、声かけをしてくれる人々
- ・そえひ保育園と真田中学校との結びつき

2 地域・保護者の願い

- ・ふるさととの自然とのふれあいができ、ふるさと傍陽のよさを知って、ふるさとを誇れる子ども
- ・ともに喜び、悲しむ優しい心もち、家庭では仕事をとおして温かな家族の交流ができる子ども
- ・知徳体のバランスのとれた「生きる力」をもち、何事にも積極的に挑戦する気概をもった子ども

3 校内体制(教職員・施設設備)

- ・130名余の全校児童を全職員で見る意識
- ・すべての教職員がもつ「先生」としての自覚
- ・情報教育のための環境が整備されている
- ・陶芸用の設備「桜窯」を備えている。

教科指導の重点

国語：目的や意図に応じ、考えた事などを筋道立てて文章を書く力を「総合」学習の場で活用できる子どもの育成

算数：「量と測定」の学習において、児童自らが課題をもち、友とともに粘り強く追究していける子どもの育成

生活：園児との交流を通して、異学年の仲間など相手に応じて接し方を考えることができる子どもの育成

図工：桜窯を利用した立体作品づくりを通して、表したいことに合わせて思いをふくらませ、つくり方などを考えられる子どもの育成

体育：身体を動かす喜びを感じ、進んで楽しく運動をしようとする子どもの育成

本年度の重点目標

【確かな学力】

- ア 知識・技能を確実に習得(読み・書き・計算)できる子ども
- イ 自ら課題を設定し、思考を深めながら解決できる問題解決能力をもつ子ども
- ウ 学習習慣を身につけ、学ぶ意欲の高まった子ども

【豊かな人間性】

- ア-a 傍陽の自然・地域社会に心を寄せ、地域とともに生きる子ども
- ア-b お互いの思いや考えを聞き合える子ども
- ア-c お互いの違いを認め合い、自分と違う人のよさを認めあえる子ども
- イ 自己肯定感をもっている子ども
- ウ 自らの経験をもとに、自分で考え、自己決定できる子ども

【健康な身体】

- ア 好んで身体を動かして遊べるたくましい心身をもつ子ども
- イ 自他の生命を大切にし、自分の生命を管理できる子ども

「総合的な学習の時間」指導の重点

自ら課題を設定し、思考を深めながら解決できる問題解決能力をもつ子どもの育成

各種教育指導の重点

道徳教育：自他の命の大切さを実感できる子どもの育成

特別活動：学校生活の向上や他のためを考え、自己の役割を果たすために、よりよい自己決定のできる子どもの育成(児童会活動)

特別支援教育：繰り返し習熟する学習活動を取り入れ、自信をもち、自己肯定感をもてる子どもの育成

人権教育：差別や偏見に気づき、差別を許さない心情をもつ子どもの育成

生徒指導：誰に対しても明るく「あいさつ」が交わされる子どもの育成

健康教育：自分の身体を自己管理できる子どもの育成

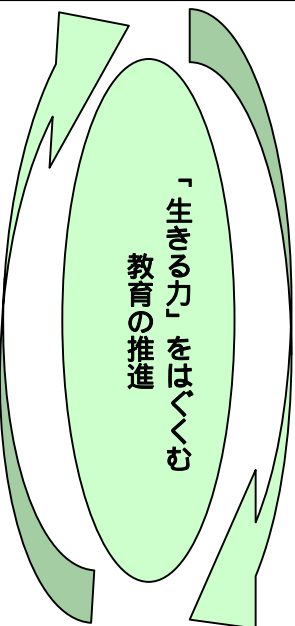
PLAN

行事：「節」としてリズムのある年間教育活動
日課：メリハリある一日をつくり出す日課の充実
授業：日々の授業充実のための実践研究

【節行事】音楽会、運動会、フェスタそえひ、スケート・スキー教室、6年生を送る会・卒業式
朝「チャレンジの時間」 業間「みんなで作る時間」 「学びの時間(補充)」 「相談の時間(個別)」
全校研究テーマの決めだし 授業公開・授業研究会(水曜日の6校時~) 教育課程研究(算数)
真田地区学習指導研究大会(国語、生活、図画工作)

ACTION

- 傍陽のよさを見出し、それを生かして改善を図る。
- ア 授業改善(CRT等をもとに改善を図り、学期ごと点検)
 - イ チャレンジの時間改善(学期ごと点検)
 - ウ 学級経営改善(学期ごと点検)
 - エ 節行事が、より「めざす子ども像」実現に迫れるよう改善
- よさとともに課題をつかみ、解決の方策を探る。
- ア 「よさ」をさらに追究することから解決できないか、
 - イ 解決のため、教職員が共通に認識すべきことは何か



DO

- 行事：ねらいを明確にし、評価規準を備えて、学級ごとに取り組む目標を決め、目標達成のために支援をしていく。
- 日課：「チャレンジの時間」「学びの時間(補充)」へのTT支援を、校長、教頭、専科、養護により、実施する。
・「みんなで作る時間」は、児童会や兄弟学級が中心となり、子どもとともに活動を創りあげていく。
- 授業 - 読み・書き・計算の力を確実に
・「チャレンジの時間」「学びの時間」「家庭学習」
・挑戦の場の保障(「漢字検定」等)
- 授業 - 課題設定力、思考力、問題解決能力を伸ばす
・毎月の授業計画教育課程研究(算数科を柱に)
・小集団を生かした学習活動の工夫
・課題設定(学習問題) 共同追究(小集団) 振り返り(自己評価)の3つに、重点をおいた授業実践

CHECK

- すべての教育活動をねらいに照らして振り返る(自己評価)
- ア 学期ごとの評価 ・授業評価(CRT等をもとに改善を図った結果を) ・チャレンジの時間評価 ・学級経営評価(学期ごと)
 - イ 節行事ごとの評価(事前に決めだした評価規準をもとに)
- 保護者・地域による外部アンケート
- ア 節行事ごとと、参観日・参観週間に、外部アンケート実施
 - イ 真田地区学校職員会合同の保護者アンケートの実施
 - ウ それぞれのアンケート分析から、よさと課題の明確化
 - エ 評価結果を「傍陽小だより」等で公表